

## 2 視点2「一人一人が英語に慣れ親しむための工夫」

### (1) 目的

チャンツやゲーム、対話などで繰り返し同じ単語を反復させるだけでは、一人一人が英語に慣れ親しむことはできない。そのため、進んで英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする児童を育成するために「絵本教材の活用」と「導入時における歌やチャンツの工夫」の2つに重点を置いて英語学習を進めてきた。

### (2) 実践と方法

<実践例> 1年「いろであそぼう」Dear Zoo

#### ア 絵本教材の活用

授業の導入時に、ALT や外国語指導員による英語の絵本の読み聞かせ活動に取り組んできた(資料8)。絵本の読み聞かせを通して、子どもたちが次のページの場面や様子を予想しながら英語に親しむ機会となっている。また、絵本の言葉を耳からインプットする中で、絵の状況と合わせて語彙を覚えることにもつながっているようだ。読み聞かせを行う際は、絵本に登場する人物の動きや顔の表情を捉えながら、語彙の必要感を持たせるようにしてきた。また、各学年の学習内容に関連した絵本を選ぶ視点を大切にしてきた(資料9)。

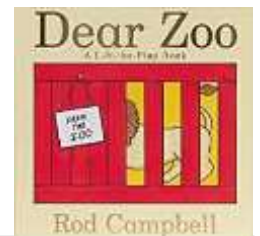
これまでに「どうぶつになってあそぼう」の学習をしているため、今回学習する「色」と「動物」と関連させて、絵本を選出する。

その他にも、同じ本の読み聞かせが続かないように「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」も扱う。

資料9 絵本を選ぶ視点



資料8 10月 英語の絵本読み聞かせの様子



#### 【Dear Zoo のあらすじ】

ペットが欲しい少年が、動物を送ってほしいと動物園に頼み、実際に動物が送られてくるが、大きかったり狂暴だったりしたため、家で飼える動物が来るまで何度も違う動物が送られてくる…といった話。この本には、同じ言い回しが繰り返され、語彙や表現にふんだんに触れることで、状況からその言葉の意味を推測し、読み手とともにその言葉を発しながら意味と結び付けることができる。

## イ 導入時における歌やチャンツを使った工夫

英語学習における歌やチャンツは、単なる学習手段のひとつになるだけではなく、雰囲気づくりや楽しさを演出するツールにもなり得る。ただ歌うだけにとどまることなく、体を動かしながら歌うことで、穏やかで温かい雰囲気の中で英語に親しむ活動ができる。右の写真は、4年生の英語学習の様子だが、学級が一つの輪になって動きながら、導入時の歌を楽しんでいる。一人一人が英語に慣れ親しむ機会となっている(資料10)。



資料10 4年 文房具ソングを楽しむ様子

### <実践例> 4年 Unit 5 「Do you have a pen?」

サザエさんのオープニングソングに当てはめた「文房具ソング」(4年生)

4年生は、学級の友達に「自分のオススメの文房具セットをプレゼントしよう!」というテーマで学習を進めた。本単元では、子どもが普段使っているなじみの深い文房具を取り扱っているが、文房具の語彙の中には stapler や pencil sharpener、ruler など耳慣れないものもある。そこで、子どもたちがよく知っているサザエさんのオープニングソングに、12種類の文房具を当てはめて歌にすることで、不慣れた文房具の発音にも慣れ親しむことができた(資料11)。



資料11 取り扱った12種類の文房具

買い物しようと街まで出かけたが～

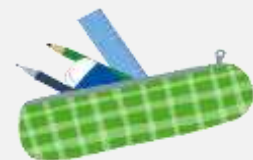
財布を 忘れて 愉快的な サザエさん

(pencil eraser pencil case ruler glue stick)

みんなが 笑っている 子犬も 笑っている ルルルルル 今日も いい天気

(notebook calendar stapler pen marker magnet pencil sharpener)

サザエさんのオープニングソングに合わせた「文房具ソング」



### (3) 成果と課題

#### ア 成果

- 多少分からない単語や表現があっても、絵からその意味を推測して絵本を楽しむことができた。自分で意味を推測することで単語や表現が定着しやすく、忘れにくいメリットもあり、低学年からの英語の読み聞かせによって、今後の英語学習の基盤を創り上げることができた。
- 穏やかで温かい雰囲気の中で英語に親しむ活動を最初に行うことで、英語を使った対話・やり取りにつなげることができた(資料12)。
- 繰り返し反復させて発音する指導よりも替え歌ソングを作ることで、子どもの耳(記憶)に残り、日常生活においても英語を使って文房具を言い表す場面を見かけることが増えた。
- 単元の学習にとどまることなく、引き出しや筆箱から文房具を取り出す場面など、実生活にも生かされることとなった。



資料12 Activity へつながる学びの姿

#### イ 課題

- 教師が作った替え歌ソングから、次は子どもたち自身で作り出すことができると英語により親しむことができていくと考える。
- どの単元においても、歌を当てはめることや替え歌を作り出したりすることが難しいため、単元による偏りを減らしていく必要がある。
- いろいろな英語の絵本に親しむことはできているが、同じ絵本ばかり何度も読み聞かせすることには限界がある。そのため、絵本のバリエーションを増やす必要がある。
- 子どもの興味が高まるような教師の示し方に更なる工夫が求められる。